
魔法先生ネギま！～人形転生記～

イザナミ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法先生ネギま！〜人形転生記〜

【Nコード】

N7252Z

【作者名】

イザナミ

【あらすじ】

普通の高校生だった少年は何の因果か1番目として転生してしまう。彼は死亡フラグを回避しつつハーレムフラグを立てるため奮闘するのだった

本作は、原作準拠、駄文、ご都合主義、チートが含まれます

プロローグ

諸君はこんな経験はあるだろうか？

目が覚めたら狭い空間に閉じ込められていた

うん、我ながら何を言ってるんだと正気を疑うレベルだ
あれか、誘拐か

何の変哲もない一介の学生を攫って何の利益があるんだか……

まあ、それはさておき狭い空間に閉じ込められているというのは事実なので俺は大人しくする道理もなく
めたくそに暴れる

元々、空間がもろかったのか大して時間もかからず壊れ光が見える
俺は急いで破片を取っ払い、周囲を確認するとそこは、まるで地下室のような薄暗い空間が広がっていた

先ほどの壊れたものを見るとどうやら棺桶だったらしい
誘拐した人物を棺桶に入れるとは大変すばらしい趣味（嫌味）をお持ちで

と、俺はそこでふと、覚えのない記憶が頭にあるのに気付く
不思議に思い探ってみると魔法やらなにやらファンタジーな単語が
次々出てくる

そして、いくつも見覚えのある単語もあった

完全なる世界 造物主 ナギ・スプリングフィールド

どう考えてもネギマです。本当にありがとうございました
なんで!?

俺、昨日 寝るまでは確かに自分の部屋だったよな!?

それがなんでいきなりネギマの世界にきとん!?

あれか、二次創作でよくある転生ものか

納得できるかばかもん! 責任者をだせ!

そんな心の葛藤を続けていると後ろから声がかかる

「驚いたな、確かに機能は停止していたと思ったのだが」

振り向いてみるとそこにはどこかで見たことのある仮面ローブ男が
立っていた

確か……デュナミスだったか?

「それにしても2年ぶりくらいか? 1番目」

1番目? 誰が?

俺しか居ませんね

そう、大変信じがたいことではあるが俺は……

只の高校生だった俺はネギマの世界の

1 番目になっていた

プロローグ（後書き）

感想お待ちしています

テラ・アーウェルンクス

「なるほど、再起動したことで別人格が宿ったというわけか」

デynaミスがなるほどと言った感じでうなづく

俺は今、デynaミスの部屋で事の次第を話していた

まあ、馬鹿正直に転生しましたゝ（・ω・）

とか言っても、いくら何でもありの魔法世界といえど、いきなり転生とかぬかしたら痛い目で見られること必至なので

あえて、それっぽい嘘をつくことにした

「そういうことですね。ただ、以前の記憶もありますから貴方の事も覚えてますよ」

そう、この体は元1番目ということもあり壊れるまでの記憶を保持していたのだ

その記憶によるとどうやら過去編は決着がついてるらしい

デynaミスの話からすると2番目はもう起動しているとのこと

ちなみにフェイトは1番目を基本に作る予定だったのが俺（1番目）が復活したため先送りになったらしい
まじさーせん

あ、ちなみに敬語なのはこの外見に合わせてだ
キャラ作りって大切だと思わんかね？

「なるほどな。……それで、これからどうするのだ？」

そうだな

俺としては、フェイトの代わりにネギの敵として立ちほだかるとい
うのも面白そうだ

だが、やはりやるならメイン側をやりたい

というか、ネギ・パーティならぬ3Aの俺・パーティを結成したい
まあ、それに至るまでにいろいろ準備は必要だが、幸い原作開始ま
で時間もあるし最初はここで修行も悪くない

修行が必要ないチートボデイでも戦闘経験が無いと宝の持ち腐れだ
しな

え？随分順応が早いって？

どうせ、転生したんだったら楽しみたいだろうが

「そうですね、最初はここでいろいろ教わりたいですね。いずれは
世界を周りたいですが」

「そうか……それもよからう。まず何を知りたい？」

それから俺はデユナミスにこの世界の事や戦闘技術を教わった

チートボデイだけあって、この体は本当に強かった

元々戦闘経験の無い俺でも普通にデユナミスと渡り合ってしまうのだ
これに勝つナギってホントにバグだったんだな

とりあえず、原作で1番目やフェイトが使ってた魔法は一通り使え
るようになった

途中、2番目が俺の方が強いとかぬかして俺に喧嘩を吹っかけて来
たのでネタ技でフルボッコにしてやったw

ちなみに砂縛枢すなくぎゆうというNARUT。の我。羅の技で大量の砂で敵を押しつぶす技だ

我。羅の技は基本、どれも強力なのだが大量の砂が必要なため使いどころが難しい 今後の課題だな

まあ、それからは2番目はすっかりびびって俺の事を兄さんと呼ぶようになったw

あ、そうそうそれからフェイトも起動した

基本のデータはできてたそうで属性は俺と同じ地だそうだ

まあ、原作通りのフェイトと思っていただいていい

原作通り最初は感情が乏しい

まあ、これからあの子に会ったりして変わっていくのだろう

ちなみに俺は完全なる世界側は特に干渉するつもりは無い
下手に関わってフェイト側が勝つことになったらやだもん

え？2番目をフルボッコにしたのはいいのかって？

かませだからいいんだよ

そして、原作開始から15年前ほどになったとき、俺は世界を周ることにした

「行くのか」

デユナミスが話しかけてくる

「ああ、僕は僕なりに世界を救う方法を探したいしね」

まあ、そんなの思いつかないのですべてネギ任せだがな！

「そうか、まあ、お前がそう思うんならいいだろう。縁が会ったらまた会おう1番目」

「それなんだけどさ。今度から僕のはテラ・アーウェルンクスと名乗ろうと思うんだ」

これは前から考えてたことだ

転生前の名前は日本名なのでこの外見にはまず似合わないなら何がいかと考えるとアラテン語の地^{テラ}というわけだ

「なるほど。地^{テラ}のアーウェルンクスだからか。了解だ、ではまたなテラ」

そうして俺はデュナミスと別れを告げ墓守の宮殿を後にした

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7252z/>

魔法先生ネギま！～人形転生記～

2011年12月24日02時02分発行